

院長
コラム

一緒に考えましょう
健康のこと
医療のこと

49

地域医療構想



市民病院
院長 神谷里明

効率的で、しかも良質な医療提供の仕組み作りのためのツールとして地域医療構想というものがありません。これを実現化するために県と市町村、地域の医療機関が集まり「地域医療構想調整会議」を開催し、協議しています。

「地域の医療・介護ニーズに対応するために、どのような医療提供体制が望ましいのか」。医療機関を役割に応じて3つの機能に分けています。

1つ目は急性期(高度急性期)機能、2つ目は亜急性期(回復期)機能、3つ目は慢性期(療養病床+介護サービス+在宅)機能です。それぞれの機能のペリメーターがその地域においてどれだけ必要か。そして各医療機関が連携し、地域の人をどう支えるかを話し合っています。今後高齢女性の入院が増加していきます。主な疾患としては脳血管疾患、肺

炎、心不全、骨折などがあり、病気が重なり、繰り返したりすることもあります。そしていずれは終末期が訪れます。今後の多死社会を迎えるにあたり、高齢者の最後の数年間をどこで、どう過ごすのかみんなで考えなければなりません。

前回在宅医療についてお話ししました。在宅とは、大きくは居宅(現在自分が住んでいるところ)と施設に分けられます。そして住むところの確保と生活を支える仕組みが必要です。生活を支える仕組みとしては「食の確保」、「買い物支援」、「移動手段の確保」などが重要です。その中で食について考えると栄養管理が重要です。栄養不足では免疫力や筋力が低下し、誤嚥性肺炎、骨折が増加します。逆に栄養過多による糖尿病の発症、悪化も考えられます。食は非常に大切なことです。

在宅を支える仕組みとしてケアマネジャーや訪問看護の力が必要です。在宅を続けるためには本人、ご家族に安心感を与える必要があります。必要なときに介護支援が受けられ、入院も含めた医療支援が受けられる。そのような体制がなければ在宅を続けることは困難です。病院、診療所、施設、訪問看護、ケアマネジャーなどがネットワークをつくり、常に患者さん、家族の方々の情報を共有できる体制づくりが必要であり、現在構築中です。



市民病院を知ろう④

入院編

今回は、入院に関することについて、久富副院長、杉本栄養管理室長、中村地域医療センター室長、長谷看護師長にお話を聞いてきました。

Q. 入院患者数はどのくらいですか。

A. 平成28年度中に新たに入院された患者さんは、のべ7355人です。年齢別の割合は、65歳以上が60%、15歳から64歳が25%、15歳未満が15%となっています。

Q. 病院食について教えてください。

A. 入院中の食事は、患者さんの病状に合わせて、医師の指示のもとに提供されます。管理栄養士は、より効果的な治療ができるように栄養面からサポートし、本人・ご家族への栄養指導も行っています。節分やクリスマスなど季節に合わせた行事食をお出しするなど、食事を楽しんでいただけるよう、毎日のメニューを考えています。



Q. 急な入院など、困ったことがあればどうすればよいですか。

A. 衣類やタオル類、消耗品類などの入院時の必需品のレンタルサービス(有料)を導入しています。その他不安に思うことがあれば、相談窓口やお近くの看護師にご相談ください。

Q. 入院に関する取り組みについて教えてください。

A. 少しでも患者さんに楽しんでもらえるように七夕やクリスマスにイベントを行ったり、認知症予防のために、体操や歌などのレクリエーションを取り入れたりしています。また、当院には急性期病棟に加えて、回復期リハビリテーション病棟、緩和ケア病棟、地域包括ケア病棟が併設されており、様々な患者さんに対応できるケアミックス型の病院としての役割を担っています。さらに、在宅療養後方支援にも力を入れています。在宅療養中で事前に登録をいただいている患者さんに対し、かかりつけ医が緊急時に入院が必要と判断したとき、当院が24時間入院受け入れを行います。入院、外来患者だけでなく、在宅療養されている患者さんやご家族が安心して自宅を過ごせるように、かかりつけ医と連携して地域に根差した病院を目指しています。

今回のインタビューでは、市民病院は幅広い入院患者の受け入れが可能なケアミックス病院であり、地域の医療機関と連携して安心して暮らせるまちづくりに貢献していることがわかりました。

病院食に関しては、少しでも患者さんに喜んでほしいという管理栄養士の方たちの思いが伝わってきました。

問合せ 市民病院管理課管理G

☎28-5151 内線22001



津島市民病院
小児科医師 永田正幸

抗生物質って？

○×クイズ

第1問 抗生物質はウイルスをやっつける

第2問 風邪やインフルエンザに抗生物質は効果的だ

<抗生物質って???)>

答えはどちらも×です。間違えた方、がっかりしないで下さい。あなたは決して少数派ではありません。一般市民を対象としたインターネット調査でも正解者は25%もいませんでした。

(参照:医療機関等における薬剤耐性菌の感染制御に関する研究「国民の薬剤耐性に関する意識についての研究」)

第1問の解説 細菌とウイルスは種類の違う病原体です。

抗生物質は細菌感染症に対するお薬であり、ウイルス感染症には絶対に効きません。

第2問の解説 風邪やインフルエンザはウイルスによる感染症です。なので、抗生物質は絶対に効きません。インフルエンザに対して処方されるのはインフルエンザウイルスに対する抗ウイルス薬というお薬で、抗生物質ではありません。

<そんなこと言われても・・・>

中には「でも風邪をひいた時にはいつも抗生物質を処方されてきた」という方がいます。風邪に対して抗生物質を処方する医師が多くいることは事実です。そういう医師は「念のために抗生物質を出しておきますね」という理由付けをすることが多いと思います。確かに風邪に細菌感染症を合併する可能性が全く無いわけではありませんが、これまで健康であった人に関してはほとんど無いと言っていいでしょう。それに、小児によく処方されているセフゾンやメイアクトは腸管吸収率が非常に低く、内服薬では効果があまり期待できません。抗生物質が必要な重症細菌感染症であれば、内服ではなく入院して点滴注射で治療すべきなのです。

また「抗生物質を飲んだら風邪が治った」という方もいます。風邪は通常は数日すれば自然に治るものです。抗生物質が効いたのではなく、自然に治る時期と重なっただけと考えられます。抗生物質は熱さましではありません。

<害が無いならいいのでは?>

通常は体内に存在しない物質が入るので、副作用の無い薬はありません。抗生物質にも下痢～ショックなど様々な副作用が報告されています。でも抗生物質の不適正使用によってもっと大変な問題が起きているのです。それは「薬剤耐性」の問題です。「薬剤耐性」とは「微生物による感染症に対し、抗微生物剤が無効になる、又は、製剤による効果が減弱する事象」とされています。要するに細菌感染症に対して抗生物質が効かなくなることです。

<うちの子に関係ないでしょ?>

薬剤耐性の問題は世界的な問題となっていて、2015年の世界保健総会では、「薬剤耐性に関するグローバル・アクション・プラン」が採択され、世界保健機関(WHO)加盟各国に2年以内の自国の行動計画策定を求めました。G7サミットでも主要議題の一つとして扱われ、日本でも2016年にはG7サミット議長国として薬剤耐性に関する取組を強化するため、「薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン」が策定されました。薬剤耐性の問題は、空間的(日本だけでなく世界中の子どもたち)にも、時間的(あなたの子供だけでなく孫やひ孫)にもグローバルな問題なのです。耐性菌は急速に増加していますが、新しい抗生物質はほとんど開発されていません。多くの抗生物質に耐性のある細菌も見つかっています。このままでは近い将来、細菌感染症の患者さんに効く抗生物質が無くて治療できないという状況になるのは目に見えています。未来の子どもたちのために、医師と患者さんが協力して抗生物質の適正使用を推進し、薬剤耐性菌を増やさないようにしましょう。

<参考になる資料→検索してみてください>

・抗微生物薬適正使用の手引き第一版(厚生労働省健康局結核感染症課)→全部読むのには多すぎるので、患者さんへの説明例の部分だけでもどうぞ

・薬剤耐性(AMR)対策アクションプラン2016-2020(国際的に脅威となる感染症対策関係閣僚会議)→少し難しいですが、冒頭のところだけでもどうぞ





市民病院の 診療科のご案内②

津島市民病院は、海部医療圏における二次救急医療機関として、地域の救急医療を担い、市民の皆さんに安心・信頼の医療を提供しています。

地域の開業医の先生方と連携して、患者さんの診察や検査等を行っています。入院や検査など、高度な医療が必要となった際には、ぜひ市民病院をご利用ください。

前回に引き続き各診療科をご案内しますので、参考にしてください。

問合 市民病院 ☎28-5151



外科

川井寛
診療局長兼外科部長
兼手術部長



外科では様々な疾患を扱っています
が、大きく分けて消化器、乳腺・内分泌、
脈管の3つに分けられます。

消化器疾患は食道から胃、大腸、肛門などの消化管と、肝臓、膵臓、胆道などの実質臓器を含みます。乳腺内分泌は乳房、甲状腺などを扱います。脈管は大動脈瘤、静脈閉塞、静脈瘤などを扱います。

食道、胃、大腸は癌の手術が主に行われ、合併症の少ない手術を目指しています。進行癌症例には根治性と安全性を第一に考え通常の開腹手術が行われますが、早期癌症例のほとんどには術後の痛みが少ない腹腔鏡下手術が行われています。

腹腔鏡下手術は術後の回復が早く、早期の社会復帰が可能になるため胆石やソケイヘルニア、虫垂炎などの症例にも積極的に取り組んでいます。

乳腺では乳癌が主であり、最近では乳



整形外科

伊藤孝紀
整形外科部長



房を全てとらずに治す、乳房温存療法も多く行っています。また脇の下のリンパ節を全てとらずにすむセンチネルリンパ節生検も行っています。

近年の超高齢化に伴い海部医療圏においても骨粗鬆症をベースとした高齢者の骨折が増えています。当科の手術件数は年々増加しており、その内の約4割が大腿骨近位部骨折(股関節周囲の骨折)および橈骨遠位端骨折(手首の骨折)に対する手術でした。入院疾患ではそれらに加えて、椎体骨折(背骨の骨折)の占める割合が増えています。これらの骨折は寝たきりの原因になるため、日ごろからの予防が非常に重要です。当科外来では骨粗鬆症の各種検査(骨密度測定・採血等)ならびに治療の導入を積極的に行っていますので是非ご相談ください。

外傷以外では、変形性膝関節症や半月板損傷による膝関節痛に対して、関



脳神経外科

辻有紀子
脳神経外科
統括部長

節鏡視下手術や高位脛骨切り術、人工膝関節置換術を行い良好な成績を得ています。
整形外科疾患はその他にも脊椎、腫瘍、リウマチ、股関節、小児整形、手の外科など専門分野が多岐に渡ります。より高度な治療が必要な場合は名古屋大学付属病院および関連病院と連携して対応しています。

脳神経外科の外来は午前中のみですが、救急疾患については救急外来担当医師、あるいは当直医と連携をとって24時間受け入れ態勢を整えています。

当院で行っている主な手術としては、脳血管障害(クモ膜下出血、脳内出血、脳梗塞、頸動脈狭窄症)、頭部外傷(急性頭蓋内出血、慢性硬膜下血腫)、脊椎疾患(頸椎症、腰椎症、脊椎外傷)、脳腫瘍、水頭症、機能的脳神経手術(三叉神経痛、顔面けいれん)、血管内手術(脳動脈瘤や血管奇形の塞栓術、血管狭窄部位へのステント留置術)などがあります。



形成外科

飯島由貴
形成外科部長

- 形成外科が扱う主な疾患は、
- ①うまれつきの形状異常(指が多い、耳の変形、でへそ等)
 - ②骨折を含む顔の怪我
 - ③治りの悪い皮膚の傷、やけど
 - ④目立つ傷痕【治療内容によって自費診療になります】
 - ⑤皮膚のできもの
 - ⑥悪性腫瘍切除後の形状や機能の修復
 - ⑦美容外科【自費診療】院内で調合した美白クリームや内服薬でのシミの治療(肌質で行えないこともあります)、ピアス孔の作成(事前購入したピアスを持参してください) です。
- その他、さかまつげ、眼瞼下垂、陥入爪【ワイヤーやクリップによる爪矯正は自費診療】等の治療を行っています。



皮膚科

竹内誠
診療技術局長
兼皮膚科部長



皮膚科では2名の医師がアトピー性皮膚炎や薬・蜂等へのアレルギー疾患、水虫やカンジダ等のカビの病気、蜂窩織炎やオデキ等の細菌による病気、帯状疱疹や水イボ等のウイルスの感染症等まで幅広く診療しています。アトピー性皮膚炎へのアレルギー確定のための血液検査も行っています。

皮膚癌やイボなどの皮膚腫瘍の手術(年間約80~90件)を含めた治療やヤケドなどの皮膚外科領域の対応もしています。

外来は月曜日から金曜日午前に行い、月曜日は午後2時~3時に予約のみで行っています。また、年間100名を超える入院患者さんへの診療も行っています。

専門外来としては、近年の高齢者の増加に対して褥瘡(とくそう)外来を毎週火曜日午後2時~3時に行っています。

手術は、年間90件程度行っています。



泌尿器科

山本茂樹
泌尿器科部長



また、尋常性乾癬への生物学的製剤による注射や内服薬での治療も行っています。

泌尿器科では主に腎臓、尿管、膀胱、精巣に起こる様々な疾患について診療しています。こうした疾患には腎盂腎炎や膀胱炎、前立腺炎などの感染症、尿路結石、悪性腫瘍などがあり、いろいろな原因で起こる排尿症状の治療も行っています。

症状を詳しくお聞きし、尿や血液検査、X線検査、場合によりCT検査や内視鏡検査を行い、治療を開始します。薬による治療から、入院での手術治療まで行っています。頻度の多い尿路結石に対しては体にかける負担の少ない体外衝撃波結石破砕術から麻酔下の内視鏡手術まで積極的に行っています。泌尿器癌に対してはロボット手術が保険適応となり普及してきており、必要な患者さんには適切な施設へご紹介します。



産婦人科

柴田大二郎
産婦人科部長



産婦人科では、周産期(お産、腫瘍(がん等)、不妊、更年期等、女性特有の疾患)をとり扱っています。

年間の手術件数は約160件です。手術は流産、帝王切開等の産科手術、子宮や卵巣の婦人科手術を行っています。また、がんに対する、抗がん剤治療も行っています。日々生命の誕生に立ち会い、使命感をもって診療に携わっています。

